

営農ウィークリーNEWS

水稲育苗中の高温に注意!!

いよいよ水稲の栽培が始まりました。

これからの育苗期で、昨年度々目にしたのが、育苗箱を置いたトンネル内が高温になり、焼けてダメになってしまった稲苗です。健苗とは、がちり育った苗です。日中の葉からの蒸散が苗の根張りを充実させてくれます。

日差しが強く25℃以上になった日は十分に換気をしなくてはなりません。通気性のある資材でも換気が必要です。また、最低気温が12℃あれば保温の必要はありません。



高温で枯死した苗（中央部）

これからの管理

水稲苗に、ムレ苗や障害が出るのは、35℃以上の高温と5℃以下の低温です。

昨年、京都市では、5月に入って最高気温は25℃以上が続き、最低気温も保温をしなくていい12℃以上でした。例年ですと連休には30℃を超える日もあります。最高温度が25℃を越えれば健苗シートの場合、裾は空けっぱなしで、換気をしっかり行いましょう。



鞘葉が黄化枯死し、根が枯死脱落した高温障害の代表的な症状

—TAC information— 「タケノコ」

出てこーい!!!



桜も散り始めるこの頃。
例年なら、最盛期を迎える「タケノコ」の収穫。しかし、今年は、例年になく少ないタケノコが出てきません…
「タケノコ」出てこーい!!!
(加工場も閑古鳥が鳴いてます……)

